

審査項目ごとの事業説明
(市民提案型・行政協働型・協働提案型)

記入例

市民提案型スタート事業以外の
申請の場合

団体名	〇〇〇の会
事業名	〇〇〇〇〇事業

課題の根拠や具体的な数値(この事業を行うことで、こういった●人の方を■人に減らしたい など)をできる限り記入

審査項目	審査基準	事業説明
公共性 公益性	・まちづくりや地域へ貢献できるものであるか ・趣味的で対象者が極めて限られる活動ではないかなど	全ての方が対象であり、人権の尊重、多様な価値観を尊重し、男女共同参画社会の実現に向けた、地域、社会に貢献できる事業である。 具体的には、第5次安城市男女共同参画プランの成果指標である「家庭生活において男女平等と考える市民の割合」(市民アンケート調査 R4 27.3%)を増加させることに貢献したいと考える。
主体性 積極性	・自主的に企画・運営・実施するものであるか ・積極的に協働する姿勢があるかなど	イベントは当団体が主に企画・運営し、実施は学生ボランティアと協働で行う。啓発誌は主に◇◇◇会が作成し、配布等は町内会と協働で行う。 チラシや啓発誌の配布は、町内会の協力のほか、自分たちで公民館に持込んで啓発していく。
実現性 計画性	・事業計画・収支計画の具体性・妥当性があるか ・事業遂行が実現可能なものであるかなど	4月から週に1回打合わせをし、8月末頃には内容等を決定し、10月にイベント開催・啓発誌発行する。時間的には十分な計画であり、昨年実施した際のノウハウの蓄積もある。
独創性 発展性	・創意工夫がみられるか ・今後の活動につながる取り組みはあるかなど	複数の講師を招いてディスカッションしてもらうこと、イベント開催と併せて啓発誌を配布することで、市民の方により理解を深めてもらうことができる。また、イベント後にアンケートを実施することにより、男女共同参画の意識の変化を確認し、今後の活動に活かしていく。
啓発性 PR性	・実施に当たってのPR方法はどうか など	昨年度実施した際には、チラシでの周知だけでは参加者が思うように集まらなかった。今回はSNSでの周知も行い、若者も参加しやすいようにオンラインでの参加申し込みもできるようにする。また啓発紙は企業の広告を掲載するなどして、協賛を募り、安価または無料で配布できるようにする。 チラシや啓発誌の配布は、自分たちで、多くの町内会や公民館に持込んで啓発し、加えて、SNSも活用してPRしていく。 X(旧 Twitter): 〇〇〇の会(@anjo_〇〇〇) Instagram: ◇◇◇の会(◇◇◇_anjo) ウェブサイト: https://www.〇〇〇.jp/index.html

過年度に補助金を活用して事業実施した場合(2回目以降)は記入

団体の SNS アカウントやウェブページがある場合は、アカウント名や URL を記載